米之宮浅間神社 社報

発行　米之宮浅間神社
〒　四一六-〇九〇六
静岡県富士市本市場五八二
☎　〇五四五-六一-〇八一七
発行日　令和二年七月一日

疫病鎮静化に祈りを捧げて

今、世界各地で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、医療現場や経済活動に大きな影響を与えています。一刻も早く事態が収束しますよう、祈念致しますとともに、どうか皆様におかれましても、体調にご留意戴きますよう、お願い申上げます。

全国の神社でも収束を願い、流行鎮静祈願祭が行われていますが、我が国の歴史の中でも幾度となく疫病が流行し、その度に祈りが捧げられてきました。本年成立千三百年を迎える『日本書紀』にも第十代崇神天皇の頃、疫病が流行り、人々の半分以上が亡くなったと記されています。そのような状況を憂いた崇神天皇が神に祈りを捧げたところ、大物主神からご神託を賜り、その子孫に祀らせると、疫病が収まったと言われています。

今上陛下におかせられても、新型コロナウイルス感染症対策専門家からのご進講の際のご発言が発表されました通り、国難を憂い、国民に寄り添われるお気持ちは今も昔も変わらず、私達を励まし、力を与えて下さいます。

夏越の大祓

大祓は古代より伝わる神事の一つで、記紀神話に見られる伊弉諾尊の禊祓を起源とし、日々の生活の中で知らず知らずのうちに身についた罪穢れを祓い清め、清らかで正常な姿を取り戻すための神事です。

この神事は、六月と十二月の晦日に全国各地の神社で行われます。

六月に行われる大祓を「夏越の大祓」といい、無病息災を祈るため、神殿前に備え付けた茅や藁を束ねた茅の輪をくぐり、罪穢れを取除く「茅の輪くぐり」が行われる神社もあります。

お盆

お正月と並んで大切な行事とされているお盆。日本では神様とご先祖様が見守って下さるという信仰により、古くから神まつりとともに先祖まつりが行われてきました。

この先祖まつりに仏教行事が取り入れられたのがお盆で、孝行説話がもとになった仏教の盂蘭盆会が言葉の由来です。

地域によりますが、七月十三～十六日もしくは八月十三～十六日頃に家に戻ってくる祖先の霊をお迎えし、またお送りするまでの行事が行われます。

七夕

七夕は五節供の一つで、星祭とも呼ばれています。織姫（織女星）と彦星（牽牛星）が年に一度、天の河を渡って出会う伝説が良く知られますが、古くは棚機女と呼ばれる娘が衣服を織りながら神の訪れを待つという信仰があり、さらに織姫にあやかって裁縫などの上達を祈る乞巧奠が伝わり今のかたちになりました。

七月七日に願い事を書いた短冊を笹に飾ると願いが叶うと言われています。

神社の豆知識

狛犬について

神社参道の両脇に一対で置かれている狛犬の起源は渡来の信仰に基づくもので、邪気を祓う意味があると言われています。一方が口を開ける阿形、もう一方が口を閉じる吽形になっていることが多く、これは万物の始まりと終わりを表しているという説があります。

神社によっては狛犬ではなく、狐や牛などの場合もあります。狐は稲荷神社、牛は天満宮に見られ、共にお祀りされている神使（神様のお使い）であるとされています。

狛犬は石製の他、木製や陶製、金属製などがあり、その表情は神社、地域によって様々です。神社を訪れた際には、どんな狛犬が置かれているか眺めてみてはいかがでしょう。

祇園祭と疫病除け

祇園祭のはじまりは、貞観十一（八六九）年、疫病が流行した時に、当時の日本の国の数と同じ六十六本の鉾を立て、疫病除けの神として信仰される祇園の神を祀った神輿を、平安京の広大な庭園であった神泉苑に担ぎ入れて災厄の除去を祈った「祇園御霊会」とされています。

古くから疫病除けの祭りとされてきた祇園祭の奉仕者が身に着ける「蘇民将来子孫也」と記した護符は、疫病を免れられる力があると言われています。

節供の歴史や狛犬などの説明は神社本庁のＨＰで紹介しています。詳しい情報を知りたい場合は神社本庁のＨＰをご覧下さい。

神社では、家内安全・身体健全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・旅行安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病気平癒・心願成就・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。

いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。

ご祈願についてのお問合せは米之宮浅間神社まで

連絡先 ☎ ○五四五-六一-○八一七
○五四五-六一-○八二九（ファックス）